

# 令和7年度岡山県立林野高等学校学校評価書

校長 竹内 稔

## 1 学校自己評価について

- ・評価結果

別紙「令和7年度 岡山県立林野高等学校具体的な学校経営目標・計画」参照

## 2 学校関係者評価について

### (1) 学校運営協議会委員名

青木 潤一（日本スクールドッグ協会代表理事）	竹内 稔（校長）
安東 大志（株式会社大広代表取締役）	忠政 勇之（美作市立美作中学校 校長）
延東 省典（美作市立美作第一小学校 校長）	中西 竜太（ウェブおかやま 代表取締役）
大川 泰栄（岡山県日中教育交流協議会事務局長）	春名 徹也（美作市政策推進部総合政策課課長）
大辻 慎一郎（美作市教育委員会学校教育課課長）	三浦 隆志（授業デザイン研究所代表）
小阪田 泰彦（林野高等学校同窓会会長）	三宅 康太（株式会社にまつわるエトセトラ代表取 締役）
小林 大輔（PTA会長）	
高橋 寿輝（一般社団法人岡山湯郷Belleゼネラルマ ネージャー）	

### (2) 学校関係者評価について

学校運営協議会における学校関係者評価として、委員から指摘いただいた主な点は、次の通りである。

- ① 生徒数減少への危機感を持ち、魅力化の取組と戦略的な広報を。
- ② 探究活動の一層の推進とともに、進学校としての役割の維持を。
- ③ 地域資源を活用した連携、「開かれた学校づくり」を。
- ④ 学校改革の方向性は評価できるので、保護者等への理解促進の手立ての検討を。

## 3 来年度の重点目標（案）について

学校評価書等をふまえて、来年度の重点目標（案）は次のとおりである。

『通いたい、通わせたい学校であるために』

- 個別最適な授業や探究的な学びによる、資質・能力の育成  
一人ひとりの特性を生かし、可能性を最大限に引き出す教育活動を推進します。
- 主体性・協働性・創造性の育成  
生徒が自ら考え、他者と協力し、新たな価値を生み出す力を育みます。
- 異校種交流、地域連携、国際交流等を通じた豊かな人間性の育成  
多様な立場や考え方を理解し、尊重するとともに、社会に貢献しようとする姿勢を育みます。
- 情報教育の推進とDXを軸とした効果的・効率的な教育環境の確立  
Society 5.0 の生き抜く力を育成するとともに、時代に適応した柔軟で最適な働き方を実践します。